

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもらいサポートにちにちそう		
○保護者評価実施期間	令和7年年8月1日 ~ 令和8年8月1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和7年年8月1日 ~ 令和8年8月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年9月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種(看護師・作業療法士・保育士・児発管等)が連携し、医療的ケアやリハビリの視点を活かした、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	一人ひとりに合わせ、遊びにリハビリの視点を取り入れている。多職種で情報共有し、コミュニケーション手段や自具を工夫しながら「できた」「やってみたい」を大切にした支援を行っている。	事業所の受け入れ体制や専門性を活かし、地域における潜在的なニーズを把握するとともに、事業所の役割や支援内容を積極的に発信していく。医療的ケア児や重症心身障がい児とそのご家族が必要な支援につながるよう、地域との連携や広報活動を強化し、支援の輪を広げていく。
2	児童の安心・安全を最優先に、経験豊富な看護師を法定基準を上回る体制で配置し、医療的ケア児とご家族が安心できる支援環境を整えている。	支援の質の向上を図るため、他施設への積極的な見学や研修会への参加を行い、職員の知識・技術の向上に努めている。	安定した医療的ケアと支援の継続に向け、職員向けの勉強会を定期的に行い、専門的な知識・技術の向上を図る。また、他施設との連携による医療的ケアに関する情報交換会を開催し、支援方法や事例を共有する。さらに、異常や事故の早期発見・情報共有につながる仕組みを整え、医療機器等のテクノロジーの導入も検討し、安全で質の高い支援体制の充実を図っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、保護者会等の交流会の開催やきょうだいが交流する機会が十分ではない。	医療的ケア児の体調面や感染症への配慮、職員の勤務体制等の両立等から、保護者参加型の行事や保護者同士の交流の機会を十分に設けられていない。	今後、保護者同士やきょうだいがつながり、交流できる機会を設け、安全面に配慮しながら、家族支援の充実につなげていく。
2	支援の質の向上及び職員の働きやすさやライフワークバランスの向上、経営基盤の盤石化	開設から1年と実績が浅く、利用児数は増加しているものの、定員にはまだ空きがある。	事業所の存在や専門的な支援内容について地域への周知が十分ではないため、今後、広報活動や関係機関との連携を強化し、必要なご家庭が支援につながるよう取り組んでいく。
3	各種マニュアルや安全計画は整備されているが、訓練の実施や保護者への周知・報告が十分ではない。	避難・緊急時・防犯・感染症等を想定した訓練の機会が少なく、訓練内容や安全対策について保護者へ伝える機会も不足している。	定期的に避難・緊急時等を想定した訓練を実施し、職員間で振り返りと情報共有を行う。訓練内容や安全対策、日頃の支援について保護者へ分かりやすく情報発信・報告するとともに、これらを通して、保護者との連携・信頼関係の構築につなげていく。